観光

東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）予選会誘致について

Q 次の5点について伺う。

1 平成15年度予選会を誘致する考えはあるか

2 開催する場合の問題点と予選会コースは、また会場をレイクアリーナ及び運動公園とする考えは

3 予選会誘致と開催に係る予算規模は

4 誘致決定から大会開始まで限られた時間であり、どのような組織で取り組むのか

5 予選会誘致は経済効果も期待できるので実施の可能性は

A 1点目について、再来年は80回という節目の大会であることから関係者や選手から「一度は箱根を走らせたい、走ってみたい」との声も聞かれており、その声にこたえるべく主催者である関東学生陸上競技連盟に箱根での開催を要望した。

2点目について、現在、レイクアリーナをスタート・ゴール地とした芦ノ湖東側の県道等を利用したコースを考え、小田原警察署と交通規制等関連する事柄も含め協議している。

見通しは厳しいものがあるが、誘致、開催に向け折衝を続けている。

3点目について、コース等不確定な部分があり、現段階で明確な答えはできないが、主催者側とも調整を図り、必要な予算措置を講じて行きたい。

4点目について、現段階では観光部に必要な調査に当たらせている。

正式開催となり、最終的には国体同様に職員、各種団体等の協力が不可欠と考えるので、必要な体制を整えていきたい。

5点目について、解決しなくてはならないことが多々あるが、実施に向け最善の努力をして行きたいと考えている。

箱根駅伝

企画

湯本地域の公共施設等の整備について

Q 湯本地域における次の3点を伺う。

1 清光園跡地や旧さがみ信用金庫建物を購入されたが、活用についての考え方は

2 第3号公共下水道の見通しについて

3 函嶺洞門付近の道路改良工事の進捗状況について

A 1点目について、ご承知の財政状況の中、現時点での先の見通しを立てることができない状況にある。地域コミュニティの場づくりの重要性は、地元の皆さんの要望でもあり、十分認識している。

公共施設のあり方については、行政改革大綱の大きな取り組み事項であり、適正配置と管理運営について職員による箱根町公共施設配置研究会を中心に取り組んでいるところであり、さらに必要があればプロジェクトチームを結成し検討する方向で進めている。

いずれにしても公共施設の適正配置は総合的な見地から検討すべき課題であるので、湯本地域の多目的集会施設についてもしっかり研究を進めてみたい。

2点目について、今後の推進を図るため小田原市と協議していくことの報告を本年9月定例会でお願いした。

以降、県・小田原市と事務レベルでの検討を行っているが、公共下水道としていくための関係機関との調整等、難しい問題もあり、また、今日の経済情勢や町財政等を考えると現時点では明確な答えはできない。

しかし町民の皆さんの生活環境、国際観光地箱根として公共下水道は不可欠であると認知しており、早期に着手して行きたいと思っている。

3点目について、地権者と県との思惑に大きな差が生じており、計画が思うよう進展しない状況であることはご承知のとおりである。

その後、県小田原土木事務所と町とで一時中断していた地権者との交渉も再開し、3回ほど交渉も行われたが、いまだ顕著な進展は見られない。町でも住民の重要な生活道として、また観光客の主要アクセス道路である国道1号線であることから後期基本計画の重要課題としており、一日も早く工事ができるよう引き続き協力している。